

# 夢に向かって挑戦する子ども

令和7年度

12月23日(火)No.11

## 家庭科の授業で幼保小中連携～弥栄中学校～ ～異年齢交流による「学習の深まり」と「つながる力」～

今号では、中学生と園児や小学生との連携についてお伝えします。

中学校で学習する「技術・家庭（家庭分野）」には、「幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること」や「幼児とのより良い関わり方について考え、工夫すること」という内容があります。

弥栄中学校では、中学校3年生の生徒たちが、小学校1年生や連携園、近隣の園の5歳児を招待し、この家庭科の授業を行いました。中学生は、相手意識があることで、より、相手のことを考えておもちゃを作り、実際に反応を見て「手ごたえ」を感じます。想像とは違う反応のこともありますし、想像以上の反応のこともあります。そして、その時々に応じて、臨機応変な対応をする必要があります。

また、小学校1年生や年長児は、優しく接してくれる中学生とのふれ合いにより、憧れの気持ちをもったり、学校は楽しいところだなと思ったりするでしょう。自分たちがお店を開いたり、年下の子どもたちに接したりするときに「お兄さん、お姉さんがしてくれたこと」を思い出して、参考にしたりするかもしれません。

代表の中学生が、終わりの会で「中学生もみんな楽しかったと思います。ぼくもみんなのおかげで癒されました。」と話していました。園児が「お兄さんお姉さん、やさしかった。」「たのしかった。」「ぜんぶたのしかった。」と話していました。中学生にとっても、園児、児童にとっても双方にとって互恵性があり、伝えようとする気持ち、楽しませようとする気持ち、劳わる気持ちなど、社会に出てからも大切にしたいことがたくさん詰まった授業でした。

幼保小連携、幼保小中連携等を活用し、異年齢交流から、双方にとって、いろいろな学びが考えられそうですね。シールにもメッセージが！この後の振り返りも楽しみです。



布を縫い、マスコットの裏にひらがなで名前を書き、名札にしました。



「どれがいい？」と選んでから遊びました。  
どうしたらうまく進むかな？ どんどん進むとおもしろい！



つりあそびの糸の長さも  
幼児の身長を考慮して作成



中学生が目の高さを合わせて1年生や園児と接している姿が印象的でした。



シールにもメッセージが！